

はないか。

答弁 全体としてこの予算が決まっている状況ではなく、現在もすり合わせ中である。政策とも十分に協議をして行きたい。

質問 妊娠期から子育て期までの支援対策として、子育て世代包括支援センターを平成32年までに設置することとされているが、取り組み状況はどうか。
答弁 相談窓口の一本化等、連携作りは必要と感じているが、センター設置の予算化は考えていない。国の対応や現状を確認しながら、対応して行きたい。

質問 病院事業会計の経常損益は当初予算からマイナスであり、一般会計等からの繰入金の前年度比約3千万円増となっている。これらの課題は何か。

答弁 医業収益に対する人件費の増や、繰入規定の見直しによる医療局分の諸経費組み入れが要因と考えている。現在の医師体制では過大な収入確保は見込めないと判断で、赤字予算を組まざるを得なかった。

産業経済部門

質問 301人を超える企業に対し、女性活躍推進法に基づいて行動計画の策定が義務づけられている。市内には何社あるか。また行政との連携が重要と考えるか。

答弁 3社あり、計画策定の作業を進

めていることを確認している。労働局からも情報は発信されているが、市としても企業訪問の際には情報提供を行っていく。

質問 市民パスポートが再発行されるが、どのように活用するか。

答弁 28年度は6万枚の印刷を予定している。内訳は全戸配布分として4万5千枚、奥州市への転入者に配布する分などで1万5千枚と考えている。えさし藤原の郷とえさし郷土文化館への入場料が半額になる。市民の利用を拡大したい。



リニューアル前の市民パスポート

質問 シルバー人材センターの現在の活動状況はどうか。

答弁 会員数は540名、受注件数は3,808件、契約金額は約1億5千万円となる。ここ2年間、ほぼ同じ数字である。

質問 世界遺産連携推進実行委員会の委員の構成と予算の使途について伺う。
答弁 県、一関市、奥州市、平泉町の観光協会、商工関係、行政で組織されている。平泉に来たお客様の奥州市へ

の誘致活動に取組んでいる。
質問 産業支援機関の設置について伺う。

答弁 28年度に設置できるように予算化している。中小企業や創業の支援などをワンストップで進めていく。金融機関・商工会議所・商工会の力添えを借りながら、組織化をしていきたい。

質問 企業誘致に関し、戦略面はどうなっているか。件数や雇用の目標は立てられているか。

答弁 企業誘致は年間3件を目標にしている。雇用人数については、企業規模に大きく影響されるため、目標を設定していない。

県では、半導体・医療・自動車といった業種に力を入れている。市としても同じ設定で進めている。県と連携しながらの取組みであるため、県に対し、要望をしながらか進めていきたい。

質問 死亡牛の処理についての見通しはどうか。金ヶ崎に保冷施設ができるが、その後の農家の負担はどうなるか。

答弁 今は、群馬県前橋市の方に、運搬しているが、今の流れは継続する。保冷施設は11月に完成する予定である。農家にかかる費用については、多角的に精査をし、28年度の前半に決めたいと考えている。

質問 学校給食における地産地消事業に関し、じゃがいも・たまねぎの年間の消費量はどの位か。

答弁 7月から9月期の統計で、じゃ

がいもの全消費量は3614kg、うち地産地消での供給が1780kgで49%。

たまねぎの全消費量は5675kg、うち地産地消での供給は2868kgで51%になる。これ以外の時期はほとんど他の地域からの供給になる。

質問 冷蔵の貯蔵倉庫があれば、年間を通して、100%近く奥州市産の野菜の供給が可能ではないか。

答弁 確実に買い上げられることなど、諸条件がそろえば検討する余地はあると考える。

建設環境部門

質問 東北油化㈱の破産後の対策状況を伺う。

答弁 臭気モニター等は必要なくなり、実施していない。跡地は債権者説明会等を実施してきたが協議を継続している状況である。

質問 放射能汚染被害牧草の対策を伺う。

答弁 江刺区の牧草処理は平成28年4月から5月までに完了する見込みである。岩手ふるさと農協管内の牧草は平成28年から1年間で処理を行う予定である。

質問 消防団員確保について、一番の課題は何か伺う。

答弁 少子高齢化、人口減少等の関連もあると思う。活性化検討委員会でも意見交換しているが、若者が少ない。